

9月15日(土) 実践報告1 第2室(本館-330)

中級英語クラスにおけるディベートの導入 Introduction of Debate into Intermediate English Class

大須賀 直子 (文教大学)

1. はじめに

ディベートは、学生の問題意識を高め、論理的思考力を養い、英語力を鍛え、さらに英語学習に対する動機づけに役立つと思われる。しかし中級レベル以下の英語クラスにとって、社会問題を論題とすることが多くまた相手側の発言に対して即座に対応できる英語力を必要とするディベートは難しく、「英語でディベートなんてとても無理だ」としり込みする学生も多い。その一方で「是非一度は英語でディベートをしてみたい」と積極的な興味を示す学生も少なからずいる。そこで発表者はこうした意欲的な学生の期待に応えるべく、中級程度の英語クラスでも可能なディベートの方法を模索し試みることにした。

2. 目的

ディベート活動を通じて以下のような能力を養成し、より高度な英語学習への意欲を高めることを目的とした。

- ・ 日常会話レベルから一歩進んで、社会問題などについて英語で理解し話をする力を鍛える。
- ・ 英語の論理的思考に慣れ、自分の考えを主張し、その理由を論理的に説明できるようにする。
- ・ 現代社会の様々な問題について考える力を養う。

3. 対象クラス

国際学部 2 年生、1 クラス 23 人。1 セメスターで週 2 回の授業。ただし、1 セメスター全部をディベートに費やしたわけではない。学生の英語レベルは英検準 2 級から 2 級程度。

4. 手順

1) 英語の論理的思考および展開に慣れる

- ・ トピックを決め（例えば、死刑制度、**working mother**、テレビの及ぼす影響等）、4、5 人のグループで肯定、否定の両面から検討し、それぞれに最低 3 つの理由づけをする。その後クラスで発表する。最初に関連記事をいくつか読ませる場合もある。
- ・ 特定のトピックについて、肯定グループと否定グループに分かれ、それぞれ理由を考える。さらに、具体的事例、統計、専門家の意見などを使って、それらの理由をサポートする。そしてクラスで発表する。次に、相手側の主張を反駁する理由を最低 3 つずつ考え、攻撃しあう。

2) ディベートの形式を学ぶ

- ・ ディベートがどのような順序で進んでいくか大筋の流れをまず説明する。

- ・ 次に各段階で何をどのように行なうべきかを説明し、実際に練習する。

3) 論題を決め、チームに分かれる

各自1つずつ考えてきた論題から、多数決によりクラスで4つの論題を選ぶ。(今回選ばれたのは、「安楽死は合法化すべきである」「中絶は認められるべきである」「成人の子供が犯した犯罪について親は責任を持つべきである」「医師は患者に告知を行なうべきである」の4つ。) 次に各論題につき肯定側、否定側それぞれ2、3人ずつのチームを形成する。

4) 各チーム毎に準備を行なう。

- ・ 各チーム毎に自分たちの主張を裏付ける最も強力な論拠を3つから4つ選ぶ。次に図書館、インターネットなどを利用して、それらの論拠をサポートする具体例、統計、専門家の意見等を準備する。
- ・ 相手チームの論点を予想する。それに対する攻撃方法を考える。
- ・ 相手チームの攻撃を予想する。それに対する防御方法を考える。
- ・ 教師の用意したフォーマットを使って、簡単なスピーチドラフトを作成する。
- ・ 各チームでの役割を決定する。一人最低一回のスピーチを担当する。

5) 実際にディベートを行なう。

- ・ 制限時間、作戦タイムはかなり多めに設定する。
- ・ チームメンバー以外のクラス全員をジャッジとし、各自 **judging form** に点数とコメントを記入する。
- ・ ジャッジのつけた点数を合計して、勝敗を決定する。

5. 結果

実際のディベートは必ずしもスムーズには進まず、予定の時間を超過したりしたが、どのチームも最後までやり通した。まずあらかじめ準備した部分については、論理的にも英語表現についてもある程度の確に主張を行なうことができた。しかし予想外の展開になると、主に英語力の不足により、相手側に理解してもらうように説明できなかったり、思うように攻撃や防御ができなかったりした。また、チームの構成によってもかなり差があり、とくにディベート経験者や海外経験者のいるチームは比較的スムーズに対応していた。

どの学生も準備の段階から非常に意欲的に参加した。これはもともと英語に対し意欲的な学生が多いこと、ディベートという未経験のアクティビティが興味をひいたこと、学生の能動的活動が中心であること、小グループにおいてどの学生の役割も大切なことなどよると思われる。学期末に行なった記述式の学生アンケートでは、ほとんどの学生が「ディベートをやってよかった。今後もっと英語力を高めたい。」というようなコメントを記した。学生の英語学習への動機づけという点では一定の成果を収めたと思われる。

今後は学生の英語力の不足をカバーしながらよりスムーズにディベートを行なう方法をさらに追究していきたい。